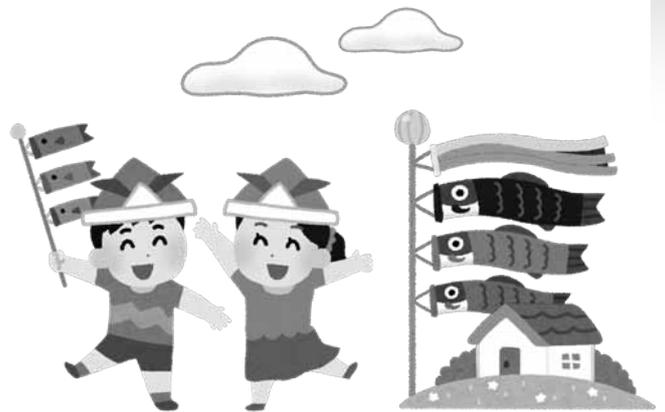


「子ども」の表記について

我が社では、小学校のPTA会報に何校か関わっているが、初校で必ず入る直しが、原稿で「子供」となっていた場合「子ども」の表記に変えるという直しである。初校前の内校で直しを入れているが、初めての学校で直しを入れずに初校を出すと、やはりこの直しが入ってもどってくる。どうやら共通した認識があるものと思われる。どんな認識か。

コドモという音は万葉の昔からあるが、それに「子供」の字をあてたのは江戸時代らしい。いわば当て字ではあるのだが、「供」の字に「お供え物」「お供する」などの連想が働き、差別的な印象を与えるというのが、「子供」を避ける要因となっている。文部科学省は2013年6月に、公用文中の「子ども」の表記を「子供」に統一した。差別表現ではないと判断し、公文書では常用漢字を使うという原則に従ったものである。だが、各教育委員会に「子供」を使う呼びかけはしない考えで、現場の判断に任されている。新聞での表記はまちまちだが、「子ども」が多いように思う。



言の葉、ひらり

同音異義語・同訓異義語の使い分け、似た言葉で間違いやすい使い方等、校正中これでいいのかともややもやした気持ちで仕事を進めると後味が悪い。調べると宙に舞っていた言の葉の意味がひらりと掌に落ちて、すっきりする。

間違えやすい四字熟語

学生時代の国語の授業を思い出して、□に入る文字を考えてください。(※解答は、紙面一番下です)

1. 意□薄弱
2. □心伝心
3. 意味深□
4. 興味□々
5. 決□投票
6. 五里□中
7. 三□一体
8. 自□自賛
9. 諸行無□
10. □刀直入

けんけんがくがく?

もう一つ、間違っって使われることの多いのが、この「けんけんがくがく」。正しくは、喧々囂々(けんけんごうごう)、大勢の人が口やかましく騒ぎ立てるさまを言うが、これと侃々諤々(かんかんがくがく)を混同してしまうもの。侃々諤々は、互いに正しいと思うことを堂々と主張し、大いに議論すること。四字熟語でも時代が変わるにつれて、一所懸命が一生懸命となるような流れがあるが、この「けんけんがくがく」も誤用でなく辞書に載る日がくることはあるのだろうか。

5月歳時記

- 1日(金) メーデー……………もともとはヨーロッパで夏の訪れを祝う5月祭。近代に労働者の祭典へと転じる。発祥は1886年、アメリカ
- 2日(土) 八十八夜……………立春から八十八日目、この日から夏の準備を始める
- 3日(日) 憲法記念日……………1947年施行された日。国の成長と発展を期する
- 4日(月) みどりの日……………2007年制定。「自然に親しむと共にその恩恵に感謝し、豊かな心をはくくむ」日
- 5日(火) こどもの日・端午の節句…子どもの人格を重んじ、子どもの幸福をはかると共に母に感謝する日
- 6日(水) 立夏……………二十四節気の一。春分と夏至のちょうど中間
- 8日(金) 世界赤十字デー……………赤十字を創設(1863年)したスイスのアンリ・デュナンの誕生日。デュナンはノーベル平和賞最初の受賞者
- 10日(日) 母の日……………日本とアメリカではこの日。世界中日付は様々。シンボルは、白いカーネーション
- 21日(木) 小満……………二十四節気の一。陽気が良くなって、万物が次第に長じて天地に満ち始めることから

- ・端午とは月の初めの午(うま)の日のことで、「午」は「五」と同音なので5日となった。菖蒲や蓬を軒に挿し、ちまきや柏餅を食べる。菖蒲が尚武に通じることから近世に男子の節句となった。柏の葉は古来食器や菓子の器に使われていて、柏餅が中国から伝わったのは奈良時代という。
- ・小満のころ西日本では、本格的な梅雨のシーズンを前に、天候がぐずつく日が続く。「走り梅雨」、「梅雨の走り」とも、またこの頃花を開く卯の花に雨が腐らせるように打ちつける様子から「卯の花腐(くた)し」とも呼ばれる。
さす傘も卯の花腐しもちおもり 久保田万太郎

竹沢メモ

今年の花見は壬生町のわんぱく公園と、下野市にある天平の丘公園へ出かけました。わんぱく公園では天気は悪かったですが巨大なこいのぼりもあり桜と鯉のコラボレーションを拝見しました。天平の丘公園では晴天にめぐまれ八重桜が見ごろでとても綺麗でした。たまたまイベントが行われており、とちおとめ25がライブをしていて初めて見ました。これからだんだん暑くなります、その前に梅雨という時期がやって来ますが雨にも負けず仕事に励みます。